

民間支援グループ、ジャパ・ベトナムは、長い戦争から解放され、経済的貧困の状況から自立復興に向けて努力する、ベトナムの人々を支援する目的で1990年に設立された。日本で寄付金を募り、農村のコミュニティや都市スラム地域で、現地住民が企画した少額（3千ドル以内）のプロジェクトに対して支援を続けながら、毎年ツアーを行い村人やスラム住民と交流を行っている。以下今年のツアーに参加し、訪問した先の様子を報告する。

#### 1. カオバン省、健康教育プロジェクト

カオバン省は中国と国境を接し、人口の90%が山岳少数民族からなり、多くの人が農業で生計を立てている。省保健省や省立病院の医師らは、省の乳児死亡率の高さや子どもの栄養失調の問題に頭を悩ませていた。その話を聞いたジャパ・ベトナムは、1992年から健康教育プロジェクトへの支援を開始し、年に1～2郡（1回約50人、4～5日のコース）のペースで現在も継続している。内容は、一般衛生、母乳保育、子どもの栄養、下痢の対処、予防接種等についてであり、それを受けた保健婦が母親達に教えていく。

村で実際に母親らと接する保健婦の話を直接聞けないのは残念であったが、省立病院で働くスタッフ（その多くは女性である）の話を聞く中で、乏しい医療機材の中で一生懸命働き、人々の健康に貢献しようと頑張っている様子がうかがえた。

#### 2. ゲアン省、経済的自立を目指す養豚プロジェクト

厳しい自然状況に置かれているゲアン省は、ベトナムの中でも最貧困地域に数えられ、出稼ぎ、他の省への移住などが多い。ビン市に近いある村では、レモンが唯一の現金収入源であり、女性達は失業状態であったことから、村の貧しい世帯を対象にした養豚プロジェクトを企画し、5年前その支援要請の手紙がジャパ・ベトナムに届いて支援することになった。豚の病気の問題など試行錯誤を経て、現在60世帯の養豚農家が定着しつつあり、近隣の村にもその取り組みが広がっている。また成人女性のための識字教室や小学校の充実など、村の自立へ向けてプロジェクトもふくらんできている。養豚を始める中で、女性達は意欲を持ち、元気になっている。養豚を通じての村人同士の交流も生まれ、今後の展開が期待される。

#### 3. ビンフック省、山岳少数民族の子どもを通学させるための寮

ベトナム政府は、山に住んでいた山岳少数民族を平地に住ませ、農業をさせる定住化政策を行った。カンボジアと国境を接するこの省では、約6つの山岳少数民族が住んでいるが、農地の状況は悪く、学校への距離も遠くて子ども達はほとんど学校に通えていない。そこで子ども達を預かり学校に通わせる寮がつけられ、現在そこから86人の子どもが小・中・高校に通っている。村では民族の言葉で話していた子ども達が、学校の勉強についていくのは大変のようである。訪問した時子ども達は、民族の踊りを披露してくれた。

#### 4. ホーチミン市のスラム地域で、住民の自立を助ける活動

スラム地域では社会の矛盾が凝縮し、麻薬使用者や他に生活手段を持たないセックスワーカーも多く、ここ10年ぐらい、HIV/AIDSが深刻な問題になっている。住民の多くは、家族に麻薬使用者やエイズ患者を抱えていたり、エイズのために亡くしている。

ホーチミン市内の4～5カ所のスラムで、エイズの予防教育、患者・感染者のケア、家族のケアを行っているグループの活動に参加させてもらった。スラムの住人100人

余りが貸し切りバス2台を連ねて郊外のお寺に出かけ、エイズで亡くなった家族の供養を行った。その後5つのグループに分かれそれぞれが円座になり、スタッフの司会で歌を歌ったり、自己紹介をしたり、H I V / A I D Sのクイズをしたりした。この企画は、亡くなった家族の供養、スラムの住民同士の交流、エイズ教育、娯楽等様々な意味合いを持っている。スラムで生活する人々と触れ合うよい機会となった。

#### 5. ストリートチルドレンをケアする活動

ホーチミン市には様々な理由で家出し、路上で生活する子どもが多数いる。2000年の資料によると、ホーチミン市に7000人のストリートチルドレンがいると言われている。ここ数年、政府はストリートチルドレンの一扫の本腰を入れ、家に帰させるか政府の施設に入れるかしている。タオダングループは、路上の子ども1人1人と接し話をしながら、彼らが置かれている病気、犯罪、H I V感染、売春などの危険から保護するため様々な活動を行っている。

ツアーでは、スタッフに話を聞き、子ども達と一緒にサイゴン川をクルーズして遊んだ。子ども達は屈託なく明るい。1人1人の子どもに、必要な愛情、衣食住、教育が与えられることを願わずにられない。

#### 6. まとめ

ここ何年か、ベトナムは急激な経済成長を遂げている。しかし多くの人々にとってその恩恵はまだ届かず、長い戦争がもたらした困難から生活の自立・復興へ向けた努力が続けられている。困難な道のりだが、平和であるということは彼らに希望を与えている。